

北村山地区の高校教育の在り方について  
報 告 書

平成 20 年 2 月

北村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会



## はじめに

山形県教育委員会は、平成 17 年 3 月に「県立高校教育改革実施計画」を策定しましたが、その中で、北村山地区の県立高校の再編整備については、少子化による中学校卒業予定者の減少により、学校の小規模化が進むことが懸念されることなどから、平成 24 年度から平成 26 年度までの検討課題として示されました。

「北村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会」(以下「検討委員会」という)は、平成 19 年 1 月 29 日、県教育委員会教育長から「北村山地区の県立高校の再編整備に係る検討について」の依頼を受け、新しい時代を切り拓く「北村山地区の高校教育の在り方」について、さまざまな視点から検討を重ねてきました。

本検討委員会では、「高校教育に関する意識調査」(以下「意識調査」という)や「地域関係者からの意見聴取」の結果などを踏まえながら、それまでの検討内容をまとめ、平成 19 年 11 月に「中間まとめ」として公表しました。その後、「『中間まとめ』に関する地域説明会」を開催し、いただいた意見も参考にしながら議論を深め、「北村山地区の高校教育の在り方」について「報告書」としてとりまとめました。

今後、県教育委員会におかれては、本報告書の趣旨を踏まえ、次代の子どもたちに対し望ましい教育環境を提供するために、条件整備などの具体的な施策を推進されるようお願いいたします。

あわせて、地域や県民の皆様には一層の御理解と御協力を賜りますようお願いいたします。

平成 20 年 2 月 15 日

北村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会  
委員長 大 瀧 保

## 目 次

1	北村山地区の高校教育の現状と課題	1
(1)	社会の変化と地域の活性化への対応	
(2)	生徒の多様化と進路の意識の変化への対応	
(3)	少子化と魅力ある学校づくりへの対応	
2	どのような人材の育成が望ましいか	3
(1)	社会や時代の変化に柔軟かつ的確に対応し心豊かに生きる人材の育成	
(2)	グローバルな視点を持ち、地域の産業や社会の発展に貢献する人材の育成	
(3)	高い目標と理想を持って自分の人生を切り拓いていく人材の育成	
3	どのような教育内容や活動が望ましいか	5
(1)	多様な進学希望を実現させる教育	
(2)	地域産業の振興を支える教育	
(3)	自己実現のためのキャリア教育	
(4)	部活動の充実	
(5)	地域との連携・交流の充実	
4	どのような高校の配置が望ましいか	10
(1)	3校の配置(3校への再編)	
(2)	2校の配置(2校への再編)	
(3)	その他の配置	
	[資料]	13

## 1 北村山地区の高校教育の現状と課題

### (1) 社会の変化と地域の活性化への対応

北村山地区の県立高校4校は、それぞれに歴史と伝統があり、特色ある人材育成に取組み、地域の内外に有為な人材を輩出している。

今、高校教育には、社会の国際化、情報化、少子高齢化及び技術革新の進展の中で、産業構造や就業構造の急激な変化に適切かつ柔軟に対応できる人材の育成が求められている。

また、地域の産業・経済が厳しい状況にある中で、地域の活力を維持し、地域を持続的に発展させることが必要となっており、郷土に愛着を持ち、地域産業・経済の活性化の牽引力となる人材の育成も強く求められている。

このような中で、4校が築き上げてきたものを踏まえながら、時代の要請に応じた、さらに望ましい人材の育成のための教育を推進していく必要がある。

### (2) 生徒の多様化と進路の意識の変化への対応

県内の中学校卒業者の約99%が高校に入学している状況や、社会の変化に伴い、生徒の能力・適性、興味・関心は多様化し、進路に対する考え方も大きく変わってきている。

現在、山形県の高校の卒業生の約45%が、大学・短大等へ進学しており、約20%の生徒が専修学校へ進学し、就職者は約30%となっている。進学者と就職者の割合はここ数年大きな変化はないが、進学者のうち、大学・短大等への進学率は上昇している。

北村山地区に在住する高校生の高校卒業後の進路は、県全体と比べて進学率がやや低く、就職率がやや高くなっているが、大学・短大等への進学率は県全体と同様に上昇してきている。

高校教育においては、かつて、進学をめざす学校と、職業人になるための学校という機能分担があり、普通教育による進学準備教育と、職業教育による社会人完成教育が分担して行われてきた。しかし、中学校卒業者のほとんどが高校に進学するようになって、生徒が多様化し、高校卒業後の大学等への進学志向が高まる中で、両機能を併せ持つことが多くの学校に求められるようになってきている。

### (3) 少子化と魅力ある学校づくりへの対応

県教育委員会によると、北村山地区の平成6年の中学校卒業生数は1,450名で、平成16年には1,235名となり、地区全体で215名減少している。さらに、平成26年には861名と見込まれ、平成16年からの10年間で374名の減少が予想されている。この地区は、5教振(「第5次山形県教育振興計画」)期間の10年間で4教振(「第4次山形県教育振興計画」)期間以上に少子化が進むことが見込まれている。

また、北村山地区の中学校卒業生の中で、他地区(特に東南村山地区)の公立高校に進学する割合は半数を超え、地区内の4高校に進学する生徒の割合を超えるような状況となっている。

「県立高校教育改革実施計画」では、平成16年度の北村山地区の学級数は4校で19学級であるが、今後の少子化の状況や、他地区へ進学する生徒が多いことから、5学級を削減し14学級程度にする必要があるとしている。

このような中で、平成17年度には北村山高校から商業科を、平成18年度には東根工業高校から工業科をそれぞれ1学級削減するとともに、平成19年度に北村山高校の普通科と商業科を学科改編し総合学科を設置しているが、平成19年度現在の17学級から、今後さらに3学級程度の削減が必要と考えられる。

このようなことから、多様な教育課程の編成、部活動や学校行事等の活性化、集団の中で切磋琢磨する機会の提供など、高校としての教育機能の維持・向上の観点から、基本的にはある程度の学校規模を確保することが必要であると考えられる。

また、実態として、学校を就職や進学の実績を重視して評価する傾向があるが、就職、進学の実績のみならず、知徳体の調和した人間の育成度、生徒自身の満足度、地域への貢献度、地域からの信頼度など幅広い観点から評価すべきであり、そうした観点で学校経営が行われることが、今後の魅力ある学校づくりに通じると考えられる。

さらに、特色ある新しい教育の展開を図り、時代の進展や社会の変化に対応できるように学校を統合して、学科内の専門性や多様性に対応できる学校を設置したり、異なる学科を持つ学校を統合して総合選択制の高校<sup>1</sup>の設置などを検討する必要があると考えられる。

その際に、柔軟で多様な教育課程の編成や、キャリア教育の推進、開かれた学校づくり、施設・設備の充実なども総合的に十分検討する必要がある。

## 2 どのような人材の育成が望ましいか

5 教振(山形の教育『いのち』そして『まなび』と『かかわり』)では、「知徳体が調和し、『いのち』輝く人間の育成」を目標に掲げ、これを踏まえた本県高校教育の目標を次のように定めている。

- ・ 高い志と挑戦する心を持ち、自己実現を図る人間の育成
- ・ 郷土に誇りと愛着を持ち、地域社会・産業の発展を担う人間の育成

北村山地区の高校教育のあるべき姿を考える場合、この目標を踏まえ、この地域で求められる人材像を明確にして、教育内容・活動、学校像などを考えていくことが必要である。

検討委員会では、北村山地区の高校の現状と課題から、育成すべき人材の視点を次の3点にまとめた。

### (1) 社会や時代の変化に柔軟かつ的確に対応し心豊かに生きる人材の育成

- ア 生涯にわたり、積極的に必要な知識や教養を身に付けようとする人
- イ 社会のルールとマナーをしっかりと身に付け、自律心と道徳心にしがって行動できる人
- ウ 他者の存在や多様な価値観を認め、感謝と思いやりの心を持って接することのできる人
- エ 社会のさまざまな人とかわるコミュニケーション能力を高めようとする人
- オ いのちの尊厳に気づき、自分の心とからだを大切にしていける人

など、知徳体のバランスがとれた人材を育てていくことが求められている。

(2) グローバルな視点を持ち、地域の産業や社会の発展に貢献する人材の育成

- ア 時代や社会の変化を読み取り、グローバルな視野を持った人
- イ 地域の産業や文化を理解し、その継承や発展に持てる力を注ぐことができる人
- ウ 広い視野から地域を考え、新しい視点と発想で地域の発展に貢献できる人
- エ 地域の内外で連携・交流を深め、地域産業を活性化する力になることができる人

など、地域の発展を担う人材を育てていくことが求められている。

(3) 高い目標と理想を持って自分の人生を切り拓いていく人材の育成

- ア 将来に夢を持ち、常に自分自身を高めようとする人
- イ 他者と積極的にかかわることで社会力を高めようとする人
- ウ 創造性に富み、広い視野と柔軟な発想でものごとを考え実践できる人
- エ 各分野の専門性と学際的な知識を身に付け、経済界・産業界のリーダーとなることができる人

など、高い志を持って自己実現を図る人材を育てていくことが求められている。



### 3 どのような教育内容や活動が望ましいか

「高校教育改革実施計画」では、本県教育の目標を達成するために、さまざまな改革を進め、教育の条件整備に取り組んでいくこととしており、「個々の生徒が充実した高校生活を送ることができるよう、多様な特色ある学校づくりを進め、各校の魅力を高める」必要があるとしている。

検討委員会では、北村山地区の高校の現状と課題及び人材育成の観点から、北村山地区の高校に望まれる教育内容や活動について次のようにまとめた。

#### 【望まれる教育内容】

##### (1) 多様な進学希望を実現させる教育

ア 普通科では、自己の適性や興味・関心を踏まえた上で、将来の職業や社会生活についての展望を持ちながら、進路を選択することが大切であり、いわゆる受験学力のみを身に付けさせることにとどまってはならない。積極的に課題を追求して解決する態度を養うことが必要である。

また、多様な進学希望に対応した進学指導を充実、強化し、いわゆる難関大学と呼ばれる上級学校にも合格できるようにする必要がある。具体的には、習熟度別学習や個別指導などをより充実させるとともに、コースやクラス編成など、他の公立高校にはないシステムの検討の必要がある。

イ 専門学科では、従来は卒業後の即戦力としての人材の育成が求められていたが、産業構造の変化や生産技術の高度化・専門化が進む中で、就職後の企業内研修や進学後の高等教育機関で、専門分野を深め、将来、スペシャリストとして活躍するための基礎・基本を身に付けさせることができるような教育内容の充実が必要である。

ウ 総合学科では、普通科及び専門学科の科目の中から、生徒が自らの興味・関心や進路希望に合わせて科目を選択して学習するため、大学等への進学や就職など多様な進路希望に対応することが可能になる。北村山高校の総合学科については平成 19 年度に設置されたこともあり、これからの取組に期待するとこ

ろが大きい。

## (2) 地域産業の振興を支える教育

ア 北村山地域は果樹などを中心とした農業地帯であり、農業とその関連産業への人材育成の視点は欠かすことができない。

農業生産技術に関する学習、農業生産と食を関連させた食品加工・食品製造に関する学習、流通・販売に関する学習、さらに環境保全に関する学習など農業に関連した学習の充実を図ることが必要である。

イ また、北村山地域は製造業を中心とした工業地域でもあり、地域の工業団地にある企業で活躍できる人材の育成や、工業を学び、ものづくりに関心を持ち、上級学校に進学して専門分野を深め、スペシャリストとして地域の企業に戻って地域をリードする人材の育成などの視点は欠かすことができない。

工業の各分野の基礎的・基本的な学習、地域の産業に密着した工業の学習、他産業との連携・融合が考えられる学習などのほか、地域の企業と連携しながらの人材育成など、工業教育の充実を図ることが必要である。

ウ 地域や地域の産業を考えた場合、この地区に設置されていない看護科、福祉科、外国語学科<sup>2</sup>、などの設置の意見もある。

しかし、「意識調査」の結果からは必ずしも強いニーズは感じられなかった。また、新たな学科の設置は、全体の学級数を考慮すると難しいと思われる。

さらに、看護や福祉に関する資格は高校での取得が制度的に難しくなっており、教科や科目としての学習にとどめ、高等教育機関での資格取得に結び付けていくような取組が求められる。

外国語学科については課題が多く、学科の設置は難しいと思われるが、外国語を学ぶことは、どの学科でも必要であり学習の充実は必要である。

エ 村山農業高校では、科学研究コンテストや学校農業クラブ<sup>3</sup>などの全国大会に参加するなど、生徒が自主的・意欲的に調査・研究活動に取り組んでいる。

東根工業高校でも、生徒が各学科の専門分野での全国大会や競技会、コンテストに参加するなど、高い技術と独創性を発揮している

こうした専門学科の取組みは、生徒に多様な活躍の場を提供し、広い視野を持った人材の育成に大きく貢献していると考えられるので、今後も充実・発展していくことが望ましい。

### (3) 自己実現のためのキャリア教育

ア 県内の高校等への進学率が約 99%になっている中で、中学校卒業時に将来の進路の方向性を決定できない生徒も少なくない。高校に入学して、さまざまな教科や科目の学習活動や、学習以外の諸活動を行っていく中で、望ましい職業観、勤労観を育成するとともに、自分の適性や興味・関心に応じた進路を主体的に選択し、実現しようとする意欲・態度や能力を養うためのキャリア教育の一層の充実が必要である。

イ 生徒一人ひとりの多様な進路希望の実現に向け、教科指導や特別活動など教育活動全体を通じ、進路指導の取組を一層充実させていくことが必要である。

また、普通教科と専門教科から選択して学習できる教育課程、就職や進学のいずれにも対応できる系列やコースの設定、途中での進路変更が可能なシステム、地域のニーズに合った科目の設定、地域を理解し貢献する人材の育成のための地域学習などが実現できるような、柔軟で多様な学習システムを構築していく必要がある。

そのために、総合学科の充実や総合選択制の高校の設置を検討していくことが望ましい。

### 【望まれる活動】

#### (4) 部活動の充実

ア 「意識調査」では、中学校 3 年生が高校を選択する理由の 3 番目に「部活動」をあげており、自分の興味・関心や能力・適性に合った部活動を自由に選択できることが重要である。

平成 19 年度現在、北村山地区の各校には 17～26 の運動部や文化部が設置さ

れており、現在の部数を将来的にも確保できるようにすることが望ましい。

イ 高体連や高文連の大会で、全国で入賞したのは以下のようになっている。

平成 16 年度

演劇・放送(東根工業高校)、  
スキー女子・クロスカントリー(北村山高校)

平成 17 年度

自転車、又新連(以上村山農業高校)、書道(楯岡高校)、  
演劇・放送(東根工業高校)、  
スキー女子・クロスカントリー(北村山高校)

平成 18 年度

自転車(村山農業高校)、演劇・放送(東根工業高校)、  
スキー男子・女子・クロスカントリー(北村山高校)

これらの部のほかにも、さまざまな部が東北大会や県大会で活躍している。全国大会や東北大会など上位の大会で活躍できるような選手の育成を一層充実させる必要があり、その活躍ぶりを地域や県民にもアピールできるようになることが望ましい。

また、全国の部活動の加入率が低下する中、生徒の積極的な部活動への参加が、学校の活力としていくことが望ましい。

#### (5) 地域との連携・交流の充実

ア 北村山地域の4校は、村山徳内まつり、東根まつり、尾花沢花笠まつりなど地域のさまざまな行事に参加することで、地域に欠かせない存在となっており、その様子は、たびたび報道にも取り上げられ、県民にも広く知られている。

こうした地域の諸行事への積極的な参加は、今後も一層充実していくことが望ましい。

イ さまざまなボランティア活動へも、北村山地区の4校は積極的に取り組んでいる。各種福祉施設へのボランティアや学校外の公共施設の清掃などに取り組むとともに、小・中・高校の合同でのボランティアの取組などもあり、生徒が他者とかかわり社会性を育む重要な機会となっている。

今後も、生徒の自由な発想によるさまざまなボランティア活動が一層充実していくことが望ましい。

ウ 学校祭などの諸行事や授業の公開、公開講座や小・中学生との交流活動の実施などによって地域に学校の取組を発信していくことは、学校の魅力を多くの人により正確に伝えられることが期待できる。

検討委員の学校視察も、外からでは知ることのできない学校の良さを感じる機会となった。地域に情報を発信し、地域に信頼される学校づくりのため、学校の公開や地域との交流の取組を一層充実させることが望ましい。

エ 各校のインターンシップに当たっては、地域の企業の方々から全面的な支援をいただくことで実施が可能になっている。

地域に学校が支えられ、学校が地域を元気にしていくためにも、学校の教育計画の立案や教育活動の実施に当たって、生徒、保護者、地域社会などの考え方を反映させるとともに、教育活動の結果を学校の内外から評価し、改善へと結びつけていく、開かれた学校づくりの充実が望ましい。

## 4 どのような高校の配置が望ましいか

前述の、「2 どのような人材の育成が望ましいか」及び「3 どのような教育内容や活動が望ましいか」の検討を踏まえ、検討委員会ではどのような高校の配置が望ましいかについて次のようにまとめた。

### (1) 3校の配置(3校への再編)

ア 各学校の規模は、1学年当たり4学級から5学級となる。

イ 多様な教育課程の編成、部活動や学校行事等の活性化、集団の中で切磋琢磨する機会の提供など、教育機能を維持・向上できる学校規模を確保することができる。

ウ 現在把握している平成32年までの生徒数の推移に対しても、再編した学校が適正な規模を維持できる。

エ 通学の便や地域の実情に配慮した学校の配置が可能になると考えられる。

### 3校の場合の例

A校 地域の産業と関連した人材の育成を担う学校

B校 多様な学びを通して自分を見つめ進路実現を図る学校

C校 進学指導を充実させた学校

### (2) 2校の配置(2校への再編)

ア 各学校の規模は、1学年当たり5学級から9学級となる。

イ 多様な教育課程の編成、部活動や学校行事等の活性化、集団の中で切磋琢磨する機会の提供など、教育機能を維持・向上できる学校規模を確保することができる。

ウ 平成33年以降生徒数がさらに減少するとしても、再編した学校がその後も適正な規模を維持できる。

エ 学校の配置に当たっては、通学の便や地域の実情に対する配慮が必要になると考えられる。

## 2校の場合の例

A校 地域の産業と関連した人材育成を担う分野とキャリア教育を充実させながら進路実現を図る多様な学習が可能な分野を持った学校

B校 進学指導を充実させた学校

A校 地域の産業と関連した人材育成を担う学校

B校 キャリア教育を充実させながら進路実現を図る多様な学習を可能にし、さらに進学指導も充実させた学校

### (3) その他の配置

#### ア 現状の4校のまま継続

- ・ 各校の規模が小規模化することから、各校とも現在の教育活動を継続することが難しくなることが懸念される。
- ・ 各校の活力の低下は、学校の魅力を失うことにもなり、他地区へ進学する生徒が増加するのではないかという心配がある。  
以上のようなことから、地域に理解されにくいと思われる。

#### イ 1校の配置(1校への再編)

- ・ 1学年14学級程度の学校では、規模が大きすぎるという懸念がある。
- ・ 学校の配置にあたっては、通学の便や地域の実情に配慮することが「2校への再編」以上に求められると考えられる。  
以上のようなことから、同じく地域に理解されにくいと思われる。

この地区に望まれる「教育内容」が大きく3つと考えられること、3校の配置により教育機能の維持・向上が可能な学校規模になること、通学の便や地域の実情に配慮した設置が可能になることから、3校の配置が望ましい。

ただし、望まれる「教育内容」の3つは、組み合わせによって2つにすることも可能であること、2校の配置でも教育機能の維持・向上が可能な学校規模になることから、学校の配置に当たっての配慮が必要になるものの、2校の配置も考えられる。

---

※1 総合選択制の高校

複数の異なる学科を持つ高校で、所属する学科の学習を重点的に行いながら、学科の枠を超えて、幅広い教科・科目を選択して学習できる。本県では、農業科と工業科を持つ新庄神室産業高校が該当する。

※2 外国語学科

高校において専門教育を主とする学科のうち、外国語に関する学科として設置が認められている学科。外国語について、卒業までの3年間で25単位以上学習し、英語以外に第2外国語として、中国語、韓国語、ロシア語などの学習を設定する学校が多い。

※3 学校農業クラブ

高校の農業に関する学科に学ぶ生徒たちが、農業や関連産業の発展を目指して農業に関する科目を自主的・積極的に学習活動を行う組織で、各種競技会・発表会の県大会、地域大会、全国大会が行われている。



◆◆ 資 料 ◆◆

## 資料 篇 目 次

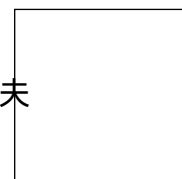
1	検討依頼	15
2	設置要綱	16
3	検討委員名簿	17
4	北村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会検討経過	18
5	高校教育に関する意識調査 概要	19
6	地域関係者からの意見聴取 概要	22
7	「中間まとめ」に関する地域説明会 概要	24

北村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会

委 員 長 大 瀧 保 様

山形県教育委員会教育長

山 口 常 夫



北村山地区の県立高校の再編整備に係る検討について（依頼）

県教育委員会では、平成 17 年度を初年度とする「第 5 次山形県教育振興計画」の実施に当たり、県立高校の教育改革等に関して取り組むべき具体的な内容として、「県立高校教育改革実施計画」を策定しております。この中で、検討課題として提示した北村山地区の高校の再編整備につきましては、社会の変化や生徒の多様化に対応し、一人ひとりの個性を活かしながら、活力ある教育活動を展開できるような、これまで以上に魅力的な学校づくりが求められていると考えております。

そのために、地域の実情を踏まえ、新しい時代を切り拓く北村山地区の高校教育の在り方について、下記の事項について検討くださるようお願い申し上げます。

記

- 1 どのような人材の育成が望ましいか
- 2 どのような教育内容や活動が望ましいか
- 3 どのような高校の配置が望ましいか

## 北村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会設置要綱

### (目的及び設置)

第1条 北村山地区における高校教育の将来の在り方について、意見を求め、教育の条件整備に資するため、「北村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会」(以下「検討委員会」という。)を設置する。

### (職務)

第2条 検討委員会は、山形県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)が検討を依頼する事項について調査・検討し、教育長に報告する。

### (組織)

第3条 検討委員会は、12人の委員で組織する。

2 委員は、教育長が委嘱する。

### (委員の任期)

第4条 委員の任期は、委嘱した日から報告書が提出される日までとする。ただし、委員が欠けた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

### (委員長)

第5条 検討委員会に委員長及び副委員長各1名を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選とする。

3 委員長は、検討委員会を主宰する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

### (会議)

第6条 検討委員会は、教育長が招集する。

2 検討委員会は、委員の過半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 委員が会議を欠席する場合は、委員長の判断により代理出席を認めることができる。

### (意見の聴取)

第7条 検討委員会は、必要があると認めるときは関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。

### (庶務)

第8条 検討委員会の庶務は、山形県教育庁高校教育課高校改革推進室において処理する。

### (その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、検討委員会の運営に関して必要な事項は、教育長が別に定める。

### (附則)

1 この要綱は、平成19年1月29日から施行する。

北村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会委員名簿

平成19年6月(五十音順、敬称略)

氏 名	役 職 名	備 考
いしやま やすひろ 石山 泰博	北村山地区中学校長会会長 (村山市立楯岡中学校長)	
おおたき たもつ 大瀧 保	東北大学名誉教授	委員長
おおるい せいいち 大類 誠一	有限会社大類製麺所 代表取締役	
さとう ひろき 佐藤 洋樹	村山総合支庁長	19年3月まで
やまぐち ひでお 山口 秀雄	村山総合支庁地域振興監(北村山担当)	19年4月から
さとう まきこ 佐藤万記子	特定非営利活動法人 クリエイトひがしね 事務局長	副委員長
しおばら みちこ 塩原未知子	有限会社テンプレス 専務取締役	
たかなし てるなが 高梨 光永	北村山PTA連合会 会長 (村山市立楯岡中学校PTA会長)	19年3月まで
いたがき まさゆき 板垣 正幸		19年4月から
たかや ときこ 高谷 時子	村山生コン株式会社 代表取締役	
とだ えいいち 戸田 栄一	株式会社うろこや総本店 代表取締役	
のぐち のぶこ 野口 信子	北村山地区小学校長会代表 (尾花沢市立高橋小学校長)	
やくち のぶや 矢口 信哉	レガルプラザツルカメ 代表取締役	
やなぎや とよひこ 柳谷 豊彦	山形県高等学校長会理事長 (山形県立霞城学園高等学校長)	19年3月まで
はやさか みつる 早坂 満	(山形県立山形工業高等学校長)	19年4月から

北村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会検討経過

第1回 検討委員会 平成19年 1月29日(月)	村山総合支庁 北庁舎	委員長・副委員長の選出、検討依頼 検討委員会の検討の進め方について
	県立楯岡高等学校視察	

第2回 検討委員会 平成19年 2月16日(金)	村山総合支庁 北庁舎	「どのような人材の育成が望ましいか」
	県立村山農業高等学校視察 県立東根工業高等学校視察	

第3回 検討委員会 平成19年 6月8日(金)	大石田町 福祉会館	「どのような教育内容や活動が望ましいか」 中学校3年生及び小学校・中学校の保護者への 「意識調査」と地域関係者からの「意見聴取」につ いて
	県立北村山高等学校視察	

- 高校教育に関する意識調査 7月11日～7月17日
- 地域関係者からの意見聴取 9月4日～9月12日

第4回 検討委員会 平成19年 10月19日(金)	村山総合支庁 北庁舎	「どのような高校の配置が望ましいか」 「中間まとめ」及び「『中間まとめ』に関する地 域説明会の開催」について
---------------------------------	---------------	--

- 「中間まとめ」に関する地域説明会
 

11月15日	村山会場	11月16日	尾花沢会場
11月20日	大石田会場	11月21日	東根会場

第5回 検討委員会 平成20年 2月1日(金)	村山総合支庁 北庁舎	「報告書」について
-------------------------------	---------------	-----------

- 「報告書」の提出 平成20年2月15日(金)

## 高校教育に関する意識調査 概要

### 1 調査対象

(1) 北村山地区のすべての中学生3年生(全員)	945名
(2) 小学校1年生から6年生までの保護者の代表(P T A役員)	1,048名
(3) 中学校1年生から3年生までの保護者の代表(P T A役員)	747名
合 計	2,740名

### 2 調査期間 平成19年7月11日～7月17日

### 3 調査結果(抜粋)

#### (1) 進学を希望する学科(第一希望)

	中学校3年生		中学生の保護者		小学生の保護者	
1	普通科	59.9%	普通科	63.2%	普通科	56.1%
2	工業科	14.1%	工業科	11.8%	工業科	10.0%
3	総合学科	6.0%	総合学科	6.8%	総合学科	7.7%
4	家庭科	2.9%	情報科	2.8%	情報科	5.3%
5	体育科	2.5%	福祉科	2.4%	商業科・看護科	3.3%
	(参考)農業科	1.6%	(参考)農業科	0.8%	(参考)農業科	0.5%

#### (2) 進学高校決定の際に重視する事項(複数選択)

	中学校3年生		中学生の保護者		小学生の保護者	
1	能力や適性	69.2%	能力や適性	84.2%	能力や適性	84.7%
2	希望する学科	45.0%	希望する学科	55.0%	希望する学科	61.6%
3	部活動状況	33.8%	進学状況	32.4%	資格取得状況	24.9%
4	進学状況	23.5%	学費等	19.6%	進学状況	24.8%
5	就職状況	20.2%	資格取得状況	19.4%	通学時間や距離	22.0%

#### (3) 高校生活で身につけたり伸ばしたりしたいこと(複数選択)

	中学校3年生		中学生の保護者		小学生の保護者	
1	知識や技能の基礎基本	71.9%	主体的な意欲や態度	52.8%	知識や技能の基礎基本	49.3%
2	健康のための体力や精神力	22.9%	知識や技能の基礎基本	46.9%	主体的な意欲や態度	47.6%
3	基本的生活習慣や社会性	22.3%	基本的生活習慣や社会性	30.0%	人間性豊かな感性など	31.6%

(4) 特色あるタイプの学校への希望(複数選択)

	中学校3年生		中学生の保護者		小学生の保護者	
1	総合学科の高校	58.7%	総合学科の高校	60.8%	総合学科の高校	66.2%
2	総合選択制高校	30.2%	総合選択制高校	37.4%	総合選択制高校	36.2%
3	単位制の高校	28.8%	単位制の高校	33.2%	単位制の高校	29.8%
4	新しいタイプの定時制高校	21.3%	中高一貫教育校	15.3%	中高一貫教育校	15.2%
5	中高一貫教育校	19.8%	新しいタイプの定時制高校	3.6%	新しいタイプの定時制高校	4.3%

(5) 高校卒業後の進路希望

	中学校3年生		中学生の保護者		小学生の保護者	
	大学進学	39.2%	大学進学	47.6%	大学進学	36.4%
	短大進学	4.5%	短大進学	3.9%	短大進学	3.1%
	専門学校進学	18.6%	専門学校進学	10.4%	専門学校進学	6.7%
	就職	16.6%	就職	12.2%	就職	10.4%
	未定	19.0%	未定	23.4%	未定	37.6%

(6) 将来就職を希望する地域(第一希望)

	中学校3年生		中学生の保護者		小学生の保護者	
1	北村山地区	22.7%	北村山地区	40.9%	北村山地区	40.8%
2	関東地方	16.4%	東南村山地区	9.8%	東南村山地区	7.9%
3	東北地方	11.6%	関東地方	6.0%	関東地方	4.0%
4	宮城県	6.1%	その他の県内	5.2%	東北地方	3.8%
5	その他の県内	5.9%	東北地方	4.1%	その他の県内	3.3%

(7) 中学校3年生は現時点の進学希望高校の所在地、保護者は学区についての意見

	中学校3年生		中学生の保護者		小学生の保護者	
	北村山地区	43.9%	今のままでよい	51.8%	今のままでよい	40.7%
	北村山地区以外	39.2%	学区は必要なし	39.2%	学区は必要なし	42.2%
	未定	14.0%	学区は厳密に	1.1%	学区は厳密に	1.1%
	その他	2.0%	わからない	6.8%	わからない	15.2%
			その他	0.2%	その他	0.5%



(8) 北村山地区の県立高校の在り方についての意見や要望

(中3):中学校3年生、(小保):小学校の保護者、(中保):中学校の保護者

【北村山地区の再編整備を容認し難いとする意見】

(中3) ・現在の学校・学科構成の継続を など

(小保) ・それぞれ伝統と特徴がある各校を現在のままで存続を など

(中保) ・違うタイプの4校を統合せず現状のまま、幅広い進路選択ができるように など

【北村山地区の再編整備に関する具体的な意見】

ア 学科に関する意見

(中3) ・現在ある学科だけでなく新しい学科の設置を など

(小保) ・学科選択の幅を狭めないで、看護科などさまざまな学科の設置を

・(進学)普通科の学校が少なく選択が困難 など

(中保) ・普通科の高校、専門学科の高校ともにレベルアップを

・以前からある普通科、農業科、工業科の存続を など

イ 学校の在り方に関する意見

(中3) ・もっとレベルの高い学校を、学校の設置場所 など

(小保) ・北村山地区に進学校を、全体のレベルアップを、中高一貫教育校を

・普通高校と産業(農業・工業を含む)高校の両方を、せめて2校に(2校案)

・通学面・経済的にも最低でも1市に1高校を(3校案)

・進学目標の普通高校・実業(農・工)の高校・多様な学び対応の高校を(3校案)

(中保) ・統合してレベルアップを、学校の組み合わせの仕方や学校数(2校案) など

・総合選択制にして、学力、進路など多様な生徒を受け入れられるような学校に

・普通科でレベルを上げ山形市内の高校に行かなくとも十分進学できる学校を

・総合学科の高校を など

ウ その他

(小保) ・大胆に統合を、高校数を少なくする必要あり、減ってしかるべき

・不便な地域なので交通の便に配慮した上で、寮があればいい

・1~2校増やして魅力ある学校を、子どもたちのことを第一に考える学校を など

(中保) ・統合した方がいい、交通の便に配慮して・金銭的負担に配慮して

・尾花沢大石田に1校、村山に1校、東根に1校(3校案)、実業高校の合併を

・豊かな人間性の育成を、育成する生徒像を明確に、少人数学級を など

【再編整備の進め方について】

(小保) ・説明会はこれまでどおりに、地域の意見を十分に踏まえて、急がずに など

(中保) ・子どもたちの未来を見据えた方向で、町づくりのことも考えて

・説明会の実施・意見を聞いて、将来のために前向きでよりよい方向へ など

## 地域関係者からの意見聴取 概要

1 対 象 地域で活躍するさまざまな分野の 15 名

2 実施期間 平成 19 年 9 月 4 日～ 9 月 12 日

3 聴取方法 直接訪問し意見を聴取

### 4 主な意見の概要

(1) どのような人材の育成が望ましいか

ア これからの北村山地域の産業(構造)、就業構造の方向性  
現在は農業、及び工業特に製造業を中心とした産業構造  
今後も概ねこの傾向が継続と予想

イ 地域産業が求める人材像

基礎・基本を身に付け、さまざまなことに適応できる人材  
地域で活躍し地域に貢献する人材  
新しい視点や発想、創造力、行動力を持った人材

(2) どのような教育内容や活動が望ましいか

ア どのような学科の在り方が望ましいか

普通科は、学力向上進学対策面での機能強化  
私立高校のような「特進コース」・「特別進学科」の設置も視野に入れるべき  
新庄神室産業高校のような農業科と工業科は一つの例

イ 北村山地区の高校教育に望むこと

地元の高校に入学した生徒を伸ばす教育  
高校教員の人材確保、配置の工夫

(3) どのような高校の配置が望ましいか

ア どのような高校をどのように配置することが望ましいか

< 1 校案 >

特別な進学機能を持った普通科、農業科、工業科、商業科の総合高校で 1 校  
専門学科でも進学者が増加。実業と進学を分けなくて 1 校もあり得る

< 2 校案 >

普通科と専門学科の 2 校

専門学科にはさまざまな学科を設置。普通科は少数のエリート養成  
農業科と工業科、普通科と総合学科の2校

< 3校案 >

地域の活性化を考え、各地区(各市)に1校の3校案

村山市に普通科・農業科の高校。東根市に工業科。尾花沢市に進学対応の高校

普通科の高校、農業高校と工業高校の統合、総合学科の3校案

普通科の高校、工業高校、総合学科の高校の3校案

普通科の高校、総合学科の高校、及び工業科と農業科を統合し、農業科を分校  
にする3校案

農業高校、工業高校、普通科の高校の3校案

< 現状の4校案 >

各校はそれぞれ存続させる意味があり、本当は4校残ったほうがいい

敷地面積が広く、環境のいいところに設置することが望ましい

子どもたちの通学を考え、交通の便のいいところに設置、駅に近い場所への設  
置が望ましい

(4) その他

高校生に即戦力は求めない。今ある学校にこだわってはいけない。時代の流れ  
に逆らえない

人口が増加しているからや、地域の中心だからでは議論は成り立たない。

中・長期的視点での検討を。ハードに対する投資・立地も検討が必要。

## 「中間まとめ」に関する地域説明会 概要

### 1 開催状況

	日 時	場 所	参加人数
村山会場	11月15日(木)19:00～20:30	村山市民会館	89名
尾花沢会場	11月16日(金)19:00～20:15	尾花沢市共同福祉施設	39名
大石田会場	11月20日(火)19:00～20:15	大石田町福祉会館	22名
東根会場	11月21日(水)19:00～20:30	さくらんぼタントクルセンター	72名
		合 計	222名

### 2 内 容

- (1) あいさつ
- (2) 説 明
  - 検討経過と今後の予定
  - 北村山地区の現状と課題
  - 意識調査と意見聴取の結果
  - 「中間まとめ」の概要
- (3) 質疑応答
- (4) その他 会場アンケートを実施

### 3 会場からの発言の概要

- (1) 村山会場
  - ・ 北村山地区内の市町単位で考えるのではなく、地区全体で考えるべき。よって、普通科の高校と、複数の学科を持った総合選択制の高校の2校案でよい。
  - ・ 農業科や工業科の専門学科は、狭い北村山地区で考えるのではなく、村山地域全体や県全体で学校の配置を考える必要がある。
  - ・ 今ある4高校をどうするのか、という具体的な案はどうなっているのか。  
同じ内容の質問は、他の会場でも出された。
- (2) 尾花沢会場
  - ・ 再編について地域をあげての反対運動になっているところがあると聞いた。教育は、そういうことで挫折してはおかしくなる。
  - ・ 高校改革の成果は、5年、10年では分からないので、長い目で考えて改革を進めてほしい。

- ・ 専門学科については、将来、農業高校を何校にし、工業高校は何校必要かの観点  
に立った検討が必要である。農業のことをきちんと考えてほしい。

#### (3) 大石田会場

- ・ 地区内の公立高校に希望しても入学できず、東南村山地区の高校に進学する生徒  
がいる。高校再編では、そうした生徒のことを考えているのか。
- ・ 学校が小さいと活力が失われる。高校が学校としての活力を持つためには、1学  
年に200人から250人必要。学校に元気が出る規模を確保してほしい。

#### (4) 東根会場

- ・ 地域に学校あれば活性化し、なくなれば衰退に拍車がかかる。教育とは別の要素  
に惑わされないで、本来の主旨に基づいて検討を進めてほしい。
- ・ 魅力ある高校を北村山地区につくれば、他地区に進学する生徒が少なくなるはず  
なので、魅力ある高校ができるよう検討してほしい。
- ・ 東南村山地区への進学者が多いのは、魅力ある学校が多いからである。北村山地  
区に魅力ある学校を設置するとあるが、具体的な姿を示してほしい。

### 4 会場アンケートの概要

#### 【人材育成に関する内容】

失ってはならない農業等のことも充分勘案して検討してほしい。  
地域に根ざし、将来地域を支える人材を育ててほしい。

#### 【教育内容や活動に関する内容】

他地区に負けない魅力ある高校にすることが大切。特に中学生、保護者とも進学、  
部活が高校を選ぶ理由の多くの部分を占めるので、その充実が必要。

東南村山地区に流れる進学希望者を、地元の高校に向けさせる進学校の充実。

地域を大切にして高校が配置されてきたと思う。地域産業の育成、発展が必要であ  
り、この地域にあった専門の高校は必要。

#### 【学校の配置に関する内容】

学校規模、学校の活用、地域性の観点から3校案は理解できる。再編にあたっては、  
生徒・保護者のニーズに合った学科(定員を含めて)編成が大事だと思う。

説明を聞き、現状から3校への再編がより望ましいと考える。尾花沢・大石田地区  
に1校、村山市に1校、東根市に1校の3校再編が望ましいのではないかと。

3校案賛成。工業高校と農業高校を併せ、産業高校にしてほしい。

農業県である山形県において、農業科への希望者が少ないから農業高校を廃止するということがないようにしてほしい。

工業団地で活躍できる人材育成(体験・実習)、また、キャリア教育の充実等から、工業高校は残してほしい。

3校への再編が現実的であるが、今後の人口推移を考えると2校の再編となるのではないか。地域の教育の向上と地域の特色ある学校づくりを考えてほしい。

スクールバスや寮を設置し、大規模な1校で良いのではないか。

4校のままで考えてほしい。教育はお金がかかってもよいのではないか。

山形県全体で将来は高校が何校必要か。その上で、専門高校は全県での配置を検討すべきである。

再編しなければならないならば、交通の便の良い所、最寄りの駅から歩いて5～10分程度の場所が良いと思われる。

#### 【その他の内容】

もう少し具体的な内容の話が聞けると思った。今後の検討に期待したい。

産業教育の位置づけを、将来的にどう考えていくのか。ビジョンがなく、いきあたりばったりで、とにかく学校を減らそうという考えなのだと思った。

総論はみんな賛成。具体的になると、反応は全く異なってくると考える。

これまでにない魅力ある高校を、言葉だけでなく、実現することを望みたい。まちづくりと密接なかわりがある。バランスのよい配置を願いたい。

子どもたちが夢の持てる再編計画になるようお願いしたい

<お問い合わせ>

山形県教育庁高校教育課高校改革推進室

〒 990-8570 山形市松波二丁目 8 - 1

TEL 023 ( 630 ) 2493 FAX 023 ( 630 ) 2774

E-Mail [kokokaikaku@pref.yamagata.jp](mailto:kokokaikaku@pref.yamagata.jp)

北村山地区の県立高校の再編に関する情報については、県ホームページでもご覧になれます。

<http://www.pref.yamagata.jp/ou/kyoiku/700013>

